5月27日（月）

赤外・ラマン分光

講義担当　：　北村　房男　（物質電子化学専攻）

•測定法の概要

• 赤外分光法もラマン散乱法も、振動分光法と呼ばれる分子の骨格振動を観測対象とする測定法です。これにより、分子構造に関する詳細な情報を得ることができます。赤外法では分子が光を吸収して振動準位が直接励起される一光子過程であるのに対し、ラマン散乱法は二光子過程で、測定に用いる光の波長も可視～近赤外と、全く異なります。

•講義の内容

• 本講義では、両者を対比させながら、

１．**測定原理**（基準振動と選択律）、

２．**装置**（分散型分光器とフーリエ変換型分光器）、

３．**測定例**（各種サンプルの形状に応じた測定法の紹介）、

４．**分子化学計算によるスペクトルシミュレーション**

などについての解説を行ないます。